

図書館《私の使い方》

長谷部 和哉



僕は4年次の4月からこの図書館でアルバイトさせていただいてきました。3年次生までも自習や授業の間の空き時間などに図書館を訪れる機会は何度もありましたが、図書館で出来ることは、勉強か読書の二つの選択肢しか存在しないものだと考えていました。きっとそんな人も多いのではないのでしょうか。しかしそれだけではもったいないほどの魅力がこの図書館にはありました。ここで僕がアルバイトの経験を通して感じたその魅力を紹介したいと思います。

まず一つ目に、書庫の魅力です。みなさんは書庫に入ったことがありますか？授業でレポートを書く際、参考文献になる本を図書館のパソコンで検索したことがある人は多くても、その本を自分で取りに書庫まで入る人は少ないのではないのでしょうか。そこで次の機会には是非、自分で書庫に入ってみてください。探していた本の両側の2冊も手に取れば、物事を見る視野の幅も一気に広がります。それだけでなく、文科系・理科系の科目を網羅した書庫では、みなさんの興味を刺激する本が必ずあるはずで、調べたい項目が漠然としているときでも、書庫から出

るころにはきっと何かの知識欲が満たされていると思います。

僕が思うもう一つの魅力が、この文章が載せられている図書館報です。特にお薦めしたいのが、外大で教鞭を取る先生方の図書館論が展開される「学生時代と図書館」です。先生方は研究者としての道を選ばただけあって、図書館によく親しんでいます。そんな先生方の図書館にまつわるエピソードや、図書館に対する考え方は単純に読み物として面白くもあり、学生にとって得難い糧になるものです。きっとみなさんの勉強へのモチベーションにつながるでしょう。やる気が出ないときに、目を通してみてはいかがでしょうか。また、図書館報にはこのほかにも面白い記事がたくさんありますので、是非一度じっくり読んでみてください。

勉強と読書をするだけの部屋にとどまらない図書館の魅力にも目を向け、図書館をより深く味わってほしいと思います。

はせべ かずや（2010年度イタリア語学科卒業生）

